

道徳2年「私は十四歳」 M. E教諭

【授業の流れ】

- (1) 自分にとって、部活動とは何だろうか。

自由な表現を尊重しながら、
生徒と教師がキャッチボール



- (2) 教師による範読

先ほどの「動」とは打って変わって、
教師の範読に引き込まれる生徒。

※この「静」と「動」こそが、道徳の醍醐味。



ワンポイント

前半に同質性の部分を扱う。 後半に異質性の部分を扱う。

道徳の資料には、生徒にとって同質の部分と異質の部分が存在する。

前半に人間としての弱さは誰にでもあること、みんなと同じだという同質性を確認した上で、後半にその弱さを乗り越えて頑張ったという異質性に着目させる。

そういう意味で、(1)で自分の考えを否定されることなく、受け入れてくれる担任や仲間とのレポートが重要となる。

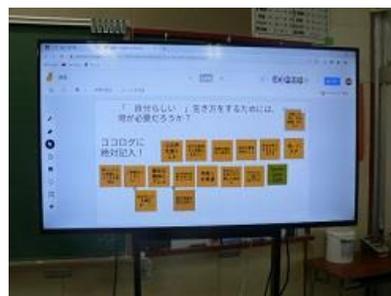
実際、生徒は「部活は面倒くさいけど、ためになる。」とか、「筋トレは嫌だけど、競技はおもしろい。」など、自分の弱さを述べていた。

- (3) 資料が自分事として考えることができる
内容のため、生徒は次から次へと自分の
考えを、ジャムボードというアプリを使
って出し合っていく。



- (4) 最終的には資料から離れ、中心発問と向き合う。
「自分らしい生き方をするためには、どのようなことが必要だろうか。」

終始、教室に温かく柔らかい空気が流れていた。



本校の今年度の重点目標

【道徳・特活の充実】

「所属集団をより良いものにするために、
主体的に考え行動する生徒の育成」